

〈資料〉

南米チリサッカーにおける指導者養成 —INAF でのインタビュー調査—

吉井 秀邦*・吉村 雅文**・小勝 健司***

The study of coaching course of soccer in Chile —An interview survey about coaching course of Chilean soccer at INAF—

Hidekuni YOSHII*, Masafumi YOSHIMURA** and Kenji KOKATSU***

1. はじめに

2014 FIFA World Cup ブラジル大会南米予選を3位で通過したチリ代表は、2014年6月13日(日本時間)に開幕した本大会で前回大会優勝のスペイン代表を2対0で破り、2大会連続で決勝トーナメントに進出した。決勝トーナメント1回戦では開催国であるブラジル代表にPK戦にて敗退したが、大会出場32か国中最も平均身長が低いチリ代表の躍進は、大きな驚きとされた。

近年のチリ代表の躍進には世界中の指導者やメディアも大変注目しており、ブラジル大会優勝後もドイツ代表の監督であるレーブは、「チリを参考」にしてチーム変革を進め、ドイツサッカー連盟のスカウトチーフであるウルス・ジーゲンターラー氏をチリに送り込んだ。

U17日本代表監督、FC東京やヴァンフォーレ甲府の監督を歴任した城福浩¹⁾は、日本の更なる強化の為に今後チリサッカーから学ぶ必要がある事を指

摘している。しかし、これまで日本ではチリのサッカーに関する研究は報告されていない。

そこで本研究では、チリの指導者養成の実態について、現地を訪問しインタビュー調査や資料収集を行った。そして、今後日本サッカーがさらに発展するため、チリサッカーからヒントを得ることを目的とした。

2. 研究方法

2.1. インタビュー対象者

対象者は、チリの Instituto Nacional del Fútbol, Deporte y Actividad física (以下 INAF とする) にて2009年から2010年まで指導者養成の Director を務め、現在の指導者養成コースのカリキュラムを再編成した Ronnie Radonich 氏である。2011年からは指導者養成コースの運営に携わりながら、コースのインストラクター兼チリ女子サッカー代表監督を務めている。

INAF は、1997年2月21日にチリサッカー連盟内の一部組織として設立された。政府から正式に認可された資格取得可能な専門学校として、国のスポーツ政策と連携を取りながら運営されている。

2.2. 調査期間

2013年6月13日 10:00-12:00

* 仙台大学体育学科
School of Physical Education, Sendai University

** 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科
Graduate School of Health and Sports Science, Jun-
tendo University

*** 帝京大学スポーツ医科学センター
Teikyo Institute of Sports Sciences and Medicine

2.3. インタビュー調査方法

本研究は、これまで先行研究が少ないという状況の中、未だ明らかになっていない実態を浮きぼりにする事を目的に、フリック³⁾が「既成の理論の検証ではなく、現象の新たな側面を発見したり、実証的データに基づいて新たな理論を生み出したりする。」と述べる質的調査を選定した。具体的な調査方法は、鈴木²⁾が「何を質問すればよいかはある程度わかっているが、どのような回答が戻ってくるか不明な場合に使用するのに適している。」とする半構造化面接法を用いた。なお対象者には、本研究の趣旨を事前に文書にて十分に説明し、調査への協力を得

た。

インタビューは INAF の建物内一室で行われ、音声記録を取ることに許可を得た。

2.4. インタビュー調査内容

INAF の設立の背景とその実態について知ることを目的とし、下記の5点について質問を用意してインタビューを行った。

- ① INAF の設立の背景について
- ② 活動内容について
- ③ 開催コースについて
- ④ 指導のコンセプトについて
- ⑤ 資格取得による効果について

3. 結 果

質問項目	返 答
① INAF の設立の背景について	「経済的な発展に伴い『ストリート』から選手が育成できなくなってきており、計画的に『育成』する必要が出てきたから。」
	「チリでは学校単位でのチームが多く、学校の体育の先生がサッカーを指導している事が多い。よって、彼らに学ぶ機会を提供する必要があった。」
	「指導者養成プログラムは、主にフランスの指導者養成システムを参考にしており、そこにオランダやスペイン、ドイツ等を視察してチリ独自の内容にした。」
	「サッカーだけではなく、スポーツ/運動と名前が入っているのは、国のスポーツ省との連携の証でもある。チリではスポーツを行う人口のうち90%をサッカーが占めているが、それはチリのスポーツ界全体の発展に良くないだけでなく、サッカー界にとっても良くないとチリサッカー連盟は考えており、スポーツ界の環境改善や地位向上の為にサッカー以外の事にもサポートしようとしている。」
	「特にヨーロッパでは、選手の早期発掘・獲得が顕著になっており、世界中にスカウト網を張り巡らせ、新興国の優秀な選手を若いうちにヨーロッパに連れていき、自ら育成するという事が行われている。」
	「このような引き抜きが続くと国内リーグや国内チームの発展が妨げられ自国サッカーの将来が危惧されるので、国内での『育成』システム構築が大変重要である。」
② 活動内容について	「INAF はチリサッカー協会の敷地内に所在し、専門学校として INAF 専用の建物を所有している。その建物の中で講義が行われ、チリではここでのみ指導者養成が行われている。」
	「グラウンドはチリサッカー協会と共有しており、隣でチリ代表のトップチームが練習を行う事もある。2学期制/年をとり、1学期は18週間に渡って開催される。」
③ 開催コースについて	「開催コースは3つあり、(1)Entrenador de Futbol(指導者養成)、(2)Tecnico de Futbol(指導者養成・経験者コース)、(3)Arbitro de Futbol(審判養成)を開催している。」
	「Tecnico de Futbol コースを選択するには、プロ選手として2年以上の在籍証明が求められ、それ以外の指導者養成コースの受講希望者は、Entrenador de Futbol コースを受講する事となる。」

質問項目	返 答
③.1. Entrenador de Futbol コース	「入学条件として、高校を卒業している事が挙げられる。」
	「4年間のコースとなり、最初の2年間で『NIVEL INICIADOR』、次の1年間で『NIVEL MONITOR』、最後の1年間で『ENTRENADOR DE FUTBOL』の資格が取得できる。」
	「『NIVEL INICIADOR』は13歳までの選手を指導対象とする。」
	「『NIVEL MONITOR』は17歳までの選手を指導対象とする。」
	「『ENTRENADOR DE FUTBOL』全てのカテゴリーの選手を指導対象とする。」
	「『NIVEL INICIADOR』取得までに1学期目432時間、2学期目414時間、3学期目432時間、4学期目396時間の合計1,674時間の受講が必要となる。」
	「『NIVEL MONITOR』取得までに、1学期目432時間、2学期目396時間の合計828時間の受講が必要となる。」
	「『ENTRENADOR DE FUTBOL』取得までに1学期目432時間、2学期目306時間の合計738時間の受講が必要となる。」
	「INAFとして大学リーグに出場し、実践の場を作り、指導の経験をさせている。」
	「授業料は2,800ドル/年(約28万円)である。」
	「統計(Estadística)や分析(Metodología de la Investigación)の講義では、INAFの建物内にパソコン室があり、そこで作業が行われる。」
「指導実践(Taller de Intervencion)ではチリのユースチームや大学チームに行き、その選手達を対象に行う。」	
「指導実践の評価にはINAFの教員に加え、その指導実践が行われたクラブチームの監督も加わり、資格取得の合否が決定される。」	
③.1. Entrenador de Futbol コース	「80~100人/年が受講している。」
	「英語の講義があるのは特徴的であり、指導者達が世界に出ていくことを考えている。」
	「現役の代表監督やスタッフも講義を行う。」
	「Entrenador de Futbolの受講者には企業の社長や病院の院長等もいる。」
	「チリではサッカーの指導者という職業は大変社会的地位が高く、経済的に余裕のある年配の方も多く受講している。」
③.2. Tecnico de Futbol コース	「3年間のコースで終了後、全てのカテゴリーの選手を指導対象とする事ができる。」
	「現役のプロ選手も多く参加しており、主に練習や試合のない月曜日に開講される。」
	「チリでのプロ選手登録期間が2年以上又はチリ3部リーグで3年以上、又はチリのU18以下のチームで5年以上の場合、本コースの取得が可能となる。」
	「1学期目270時間、2学期目342時間、3学期目252時間、4学期目342時間、5学期目270時間、6学期目360時間の合計1,836時間の受講が必要となる。」
	「40人/年が受講している。」
③.3. Arbitro de Futbol コース	「2年間の受講後、1年間の実践を経て、資格取得となる。」
	「1年目864時間、2年目792時間の受講に加え、実践288時間が必要となる。」
	「30人/年が受講している。」

質問項目	返 答
③.4. 指導のコンセプトについて	「多くの講義が設定されているが、①技術、②戦術、③フィジカル、④メンタル、⑤ルールの5つの分野に分けている。」
	「U9, U10, U11-13, U14, U15, U16, U17, U18-19, U-20-23のカテゴリーに分けて技術・戦術トレーニングにおける指標とトレーニング方法を示している。」
	「個人技術として①パス、②コントロール、③運ぶ、④シュート、⑤空中戦(ヘディング)、⑥体の使い方の6つの基本的な技術に分けて指導している。」
	「例えば③運ぶという技術も①視野の確保、②止まる、③フェイント(ターン)、④キックフェイント、⑤フェイント(シザース)、⑥ボール保持、⑦スピードの変化、⑧局面の変化、⑨進行方向の変化、⑩裏通りという10項目に分けて指導している。」
	「チーム戦術の攻撃に関する講義では、①カウンター、②ダイレクト、③ビルドアップ(elaborado contruido)という3つの状況に分けて指導している。」
	「チーム戦術理解度に関して、チリ独自の9つの指標を新たに作った。」
	「これまでフィジカルは客観的な指標があったものの、戦術に関する指標がなかった為に新たに作成した。」
③.5. 資格取得による効果について	「指標作成にあたっては、オランダのアヤックスが使用していた28の指標や現在プレミアリーグのマンチェスター・シティで監督を務めるチリ人のPellegrini氏の指導方法を参考にした。」
	「ペーパーによる試験と指導実践による試験があり、双方をパスする必要がある。」
	「ただし、指導実践を重視している。」
	「チリサッカー連盟が主催する大会には、このINAFが認める指導者資格か国が認定する体育の教員免許を保持する指導者がいるチームしか参加できないようにして指導のレベルを確保している。」

4. 考察と結果

チリの指導者養成は、経済的な発展に伴い「社会的な環境変化への対応」に迫られ、ヨーロッパの指導者養成を参考に作られたとの事であり、カリキュラム自体の構成は日本のものと大変似通ったものであった。一方で、受講期間は専門学校として一年を通して開催されており、日本よりも非常に長い期間に渡り受講する事となっていた。また、選手の戦術理解度を図るチリ独自の指標を作成しており、南米に対する一般的なイメージでの感覚的な指導ではなく、とても客観的な指導が行われていることが示唆された。指導実践は、実際に活動しているチームに出向いて行い、そのチーム所属のコーチ達からも評価されアドバイスを受ける事ができるようになっていた。

近年、イングランドプレミアリーグのマンチェス

ター・シティで監督をする Pellegulini 氏のようにチリ人の指導者が海外のトップチームで活躍するケースも出てきた。このような指導者のレベルの向上が、多くのレベルの高いチリ人選手の育成につながり、チリ代表の躍進の一因となったと考えられる。そして、日本サッカーの更なる発展のために、今後日本の指導者養成の期間や指導実践方法について再考すべき余地があることが示唆された。

参考文献

- 1) 城福浩(2014)チリが見せたアクションのサッカー。Number875号掲載記事, Number Web, 2014年8月19日配信. <http://number.bunshun.jp/articles/-/821479>
- 2) 鈴木淳子(2002)調査的面接の技法, 第2版, 株式会社ナカニシヤ出版, 24-25.
- 3) U・フリック(2002)質的研究入門―「人間の科学」

のための方法論，小田博志他訳，春秋社，18-19.

（平成27年9月29日 受付）
（平成27年11月10日 受理）